

英語科学習指導案

1年2組 男子16名 女子17名 計33名
指導者 森田 康寛、ALT Daniel Galloway

1 研究主題 「生き生きと英語を使う生徒の育成を目指して」
～帯学習(パワーアップスキット)をベースにした確かな表現力の育成～

2 単元名 PROGRAM 5 国際フードフェスティバル

3 研究主題との関連

生徒たちは、毎時間始めにパワーアップスキットという帯学習に取り組んでいる。これは「使える英語」を目指した実践で、ペアで対話をしながら既習事項の習熟化を図るものである。言語の習得の過程で、Input の重要性は言うまでもないが、Input をいかに Communicative に行い、効果的な Intake につなげていくかが重要で、それがより Creative な Output にダイレクトにつながっていると考えられる。

その効果的な Intake のために、このパワーアップスキットには空欄や選択する部分を意図的に設定し、発話にメッセージ性が出やすくなるようにしてある。各スキットでは、生徒の日常にあるような自然な場面を取り上げ、その中で会話をしていくことで、ターゲットフレーズが無理なく身に付くように工夫してある。

ペアリングや座席もソシオを基にして設定し、互いに信頼し合えるパートナーと共に行うペア学習をベースとして授業を仕組み、互いに関わりながら成長していく過程を大切にしている。

本時では、What's this?の表現の定着を図るため、必要感のある場面を意識し、ペアワークを有効に働かせ、理解の遅い生徒にも「できた」という実感につながるように授業を展開していきたい。そして、「できた」という実感がさらなる学習意欲へと発展していくことを願っている。

4 指導計画 (全 8 時間)

- | | | |
|-----|-----------------------------------|---------------|
| 第1次 | 友達や身の回りのものを紹介したり尋ねたり答えたりできるようにする。 | … 2時間(本時 1/2) |
| 第2次 | どこにあるのか尋ねられるようにする。 | … 2 時間 |
| 第3次 | 身の回りの人について話せるようにする。 | … 2 時間 |
| 第4次 | まとめと発展 | … 2 時間 |

5 本時の学習

(1) 目標

- ・ "What's this?"の表現を用いて積極的に会話をするができる。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・ "What's this?"の使い方を理解し、自然な対話の中で使うことができる。【表現】

(2) 展開

配時	学 習 活 動 ・ 予想される生徒の実態	・ 教師 の 指 導 ・ 援 助 ◆ 評価
1	1 あいさつ	・ アイコンタクトを取りながらあいさつを交わすことがコミュニケーションの第一歩であることを意識させるようにあいさつをする。
6	2 Power Up Skit (帯学習：既習事項を用いての言語運用練習) (ペア)	・ 機械的な問答ではなく、カードを見ずに聞いた音に反応するように促す。 ・ 個人評価を行い、ペアで互いの活動に関してアドバイス交換を行うように告げる。
6	3 課題の確認 ・ 学習のポイントを確認する。	・ 課題を導入し、本時の活動に見通しをもたせる。 ・ 学習のポイントを書写するように指示する。
学習課題 "What's this?"の表現を使えるようになるろう		
4	4 アクティビティの確認と準備 ・ クイズに答えて活動の見通しをもつ。 ・ クイズを出す準備をする。	・ クイズ形式で "What's this?" のモデルを示す。 ・ "What's this?" を用いたスキットを導入し、活動の見通しをもたせる。 ・ クイズの準備をすることを伝える。
3	5 練習 (ペア) ・ クイズを出し合う。	・ どの生徒にも「できた」という実感が得られるよう、ペアワークを有効に活用する。 ・ 自然な対話になるよう、ペアでアドバイスするよう伝える。 ・ 対話に必要な基本的な言語材料の発話練習をする。
16	6 問答練習 (個) ・ フリーで相手を探し問答する。	・ フリーで相手を見付け、問答するよう伝える。 ◆ 生き生きと会話を楽しんでいる。(表現力、観察)
4	7 自己評価 ・ 本時の活動を振り返る。	・ 本時の目標が達成できたかが確認できるようワークシートを工夫する。 ◆ "What's this?" の表現が習得できている。(表現力、ワークシート)
4	8 英語の歌 ・ Hey, Jude を歌う。	

(3) 視点

- ・ クイズ形式の活動は、"What's this?"を自然に習得するのに有効に働いていたか。